
多面的機能支払 メールマガジン

「農村ふるさと保全通信」第76号(2019.11.25)

農林水産省農村振興局 多面的機能支払推進室



高めよう 地域協働の力!

多面的機能支払のメールマガジン「農村ふるさと保全通信」の第76号をお届けします。

今回の活動組織紹介では、広域協定を結びスケールメリットを活かした取組を行っている組織や、地域住民で話し合いを行い共同活動により一層力を入れて取り組んでいる組織を紹介します。

事務局からは、活動組織の代表者インタビュー、全国研究会について紹介します。

--- 第76号の目次 ---

1. 活動組織の紹介

☆ 田布施^{たふせ}町地域広域協定（山口県田布施町）☆

☆ 木場^{こば}本陣の里活動組織（長崎県北松浦^{きたまつうら}郡佐々^{さざ}町）☆

2. 活動組織の代表者インタビュー

☆ 有脇^{ありわき}の農地・水・緑を守る会（愛知県半田^{はんだ}市）☆

3. 「令和元年度 全国研究会」を開催しました！

（編集後記）

■ 1. 活動組織の活動紹介(1)

～ 田布施町地域広域協定(山口県田布施町)～ ■

～地区概要～

山口県の南東部にある田布施町全域で活動。

活動範囲は、田 332.6ha、畑 13.6ha、水路 130km、農道 52km、ため池 9箇所。

～主な取組～

- ◎本組織は、農村を町単位で守っていくとともにスケールメリットを活かした活動の実施を目的として、既存の活動組織が参加した町で一つの広域活動組織を設立しました。
- ◎設立にあたっては、集落毎に基盤整備の状況による施設の維持管理方法や補修内容の相違、担い手の有無による広域化への意欲に差がある等の課題がありました。しかし、このままでは町の農村が荒廃するという思いが勝り、そうした課題の解決や行動の統一性を図ることで1町1組織を実現させることができました。
- ◎組織では、地域の小学校と連携して生きもの調査や田植え体験を実施しており、子供たちが初めて地域の自然に触れるきっかけや農業の大変さを知る機会となっています。
- ◎現在は、前組織の個々の活動を踏襲していますが、今後、広域組織で統一した活動の実施や集落間の枠を超えて活動する、専門部隊の設置などを検討していきたいと思っております、そのためには役員が尽力していく必要があると考えています。



農道の草刈り



生きもの調査



田植え体験



前組織代表者による検討会

【田布施町経済課 荒石】

■ 1. 活動組織の活動紹介(2)

～ 木場^{きば} 本陣の里活動組織(長崎県 北松浦^{きたまつうら} 郡 佐々町)～ ■

～地区概要～

長崎県の北部に位置し、佐々町東部の中山間地域の棚田農地を拠点に活動。

活動範囲は、田 36.6ha で、水路 7.3km、農道 3.3km、ため池 11 箇所。

～主な取組～

- ◎本組織は、構成員の高齢化が進んでいることから、農地や施設の維持管理等について検討会を実施しており、10年後には、耕作者の大部分が70歳以上となることが明らかとなりました。
- ◎このことから、作業受委託の調整や担い手の育成が、急務であるとの統一した考えのもと、話し合いを積み重ねていきました。その結果、共同活動の重要性が広く理解されたことで、草刈りや水路の泥上げ等の活動への参加者が以前より増え、地域の協力性が高まりました。
- ◎また、地域一体となり農業の持続発展につなげていこうとする構成員の熱い想いのもとに組織名を改名しました。
- ◎さらに、今年度より地域の自治会と連携した景観形成活動にも取り組んでおり、地域の子どもたちとともに、夏にはヒマワリ、冬には菜の花を、組織で保全管理する農地に植栽することで、地域の景観形成に大きく貢献しています。
- ◎今後も、農業者や農業者以外の方と連携し、助け合いの精神で地域の農地の維持や担い手の育成に努めていきます。



水路の補修



水路の清掃



検討会の様子



保全農地と子ども達

【木場本陣の里活動組織 代表 藤永達夫】

■2. 活動組織の代表者インタビュー

～有脇^{ありわき}の農地・水・緑を守る会(愛知県半田^{はんた}市)～■

組織の概要

愛知県知多半島の中ほど半田市の北東部に位置し、市街地北部にはため池、東部には水田が広がる都市的地域で活動しています。活動範囲は、田 34ha、農道 3.0km、開水路 3.1km、パイプライン 9.0km、ため池 5箇所。集落は 560戸 1,900人、専業農家は 10戸ほどで、地域内の自治区や小学校、公民館等の諸団体と共同活動に力を入れています。

～インタビュー～

Q：組織設立時から代表として組織を運営されてきたのでしょうか？

A：本組織は平成 19 年 4 月に発足し、今年で 3 期 13 年目になります。発足当初は農業者が代表で、私は農業者ではありませんが、地区の区長の立場から副代表として参加し、平成 29 年 4 月から代表となりました。



有脇の農地・水・環境を守る会

代表：石川 紘二 氏

Q：石川さんの後継者候補はいらっしゃいますか？

A：本地区では、他地区と同様に構成員の高齢化で、後継者不足に悩まされています。構成員の平均年齢は 70 歳で、ほとんどが定年後の人たちです。私の後継者もまだ決まっていない状況です。

Q：組織を運営する中で苦労していることはありますか？

A：地域住民や小学校との共同活動はそれぞれ理解度が高く、スムーズに行われている一方で、農業施設のメンテナンス、草刈りなどは構成員の減少と高齢化により能率低下と作業中のけがなどが発生しており、問題となっております。また、耕作放棄地や遊休農用地が年々増加しており苦慮しています。

Q：今日まで活動組織を継続することができた秘訣などありましたら教えてください。

A： 活動継続の秘訣は、非農業者の方を活動に取り込むことと積極的なPR活動です。

非農業者の参加については、例えば、耕作放棄地を活用してそば作りを始めて、地域住民にそば打ち体験をしてもらうなど、関連づけが必要だと思います。

また、ため池の整備や生態系保全などを効果的に進めるため、5つの池を対象に定期的なかいどり（池の干上げ）を小学校の課外授業として行っています。子供だけでなく先生やPTAも参加することで、多くの人を引き込むことが出来ます。また、かいどりを体験した子供が大きくなり成人になって、地域に帰ってきてくれるのも大きな財産になっています。

PR活動については、活動の成果だけでなく、年度の予定も含め積極的にPRすることで、人の輪が広がるとともに地域住民への活動参加を促すことにも繋がります。



かいどりの様子

Q：約10年間活動を続けてこられて、良かったことをお聞かせください。

A： ため池を中心とした景観整備が功を奏し、活動に対する地域住民の理解と協力が得られるようになりました。また、子供に対する農業体験やかいどりの良さが地域内外に広まり、構成員のモチベーションが高くなってきました。小学校と協力して地域ぐるみで、農村環境を守るために継続してかいどりを行ったことで、平成27年のパリのユネスコ本部『ユネスコスクール』加盟が実現しました。これは本組織の活動が評価された、うれしい出来事でした。加えて、地域全体の景観整備活動が評価され、ため池周辺の公園化が市の主動で進んでいることも、日頃の活動の成果だと思っています。

Q：今後の意気込みをお聞かせください。

A： 少子高齢化に伴う空き家や耕作放棄地、遊休農用地の対策に本組織の活動が少しでも役に立てばとの思いで、これからも活動していくつもりです。また、今軌道に乗っているかいどりなどの地域活動をしっかりサポートし、後継者不足の農業経営対策として、耕作面積の拡大と農作業の自動化・省力化の道筋をつけたいと考えています。後継者の育成については、喫緊の課題として注力していきたいと思っています。

■3.「令和元年度 多面的機能支払交付金全国研究会」を開催しました！■

11月6日（水）に、一橋大学一橋講堂にて「令和元年度 多面的機能支払交付金全国研究会」を開催しました。全国研究会には、活動組織の方や推進組織、地方公共団体職員など約500人の方に参加していただきました。全国各地から多くの方にご参加いただき、本当にありがとうございました。

第1部では、昨年5年目を迎えた本交付金の評価と、消費者が期待する本交付金の役割についての基調講演、第2部では、「女性の活躍」と「土地改良区との連携」をテーマにした事例発表、第3部では、「女性の活動への参画」に関するパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、家事や仕事に配慮した活動時間の設定やSNSを活用した会議など女性が参加しやすい環境づくりのための工夫、女性の参加者が増加することによる地域の輪の広がりが、活動の活性化につながるなどについて議論がなされました。

また、会場の外では事務支援システムの実演も実施され、多くの方にシステムを体験していただきました。

今後のメールマガジンにて、講演や事例発表のより詳しい内容を連載していきます。

【令和元年度 全国研究会】

第1部 基調講演

「多面的機能支払交付金の5年間の取組と効果」

農林水産省農村振興局農地資源課 多面的機能支払推進室長 ながやま 長山

「消費者が日本の農業に期待すること」

一般財団法人 日本消費者協会 理事 こうの 河野 氏

第2部 事例発表

「女性の活躍による活動の広がり」

おいらせ 奥入瀬 川沿岸地域保全広域協定 十和田土地改良区 ふくだ 福田 氏

「活動の円滑な推進に向けた土地改良区の役割」

いすも 出雲市 ひかわ 斐川 町農地・水・環境保全管理協定

出雲市斐川土地改良区 すぎたに 杉谷 氏

第3部 パネルディスカッション

「女性の活躍による地域コミュニティの活性化」

パネラー ・ミヤタナゴの里環境保全会、農業女子プロジェクト にしおか 西岡 氏

・大宮町広域協定運営委員会 かわぐち 川口 氏

・奥入瀬川沿岸地域保全広域協定 十和田土地改良区

みやうち
宮内氏、福田氏

・出雲市斐川町農地・水・環境保全管理協定
出雲市斐川土地改良区 杉谷氏

コーディネーター ・宇都宮大学 名誉教授 みすたに
水谷氏

▽全国研究会のHPこちら▽

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamenn_kennkyukai19.html



講演の様子



パネルディスカッションの様子

【農林水産省 多面的機能支払推進室】

■編集後記■

11月も下旬となり、一段と肌寒くなってきました。そんな日には温かいものが食べたくなりますね。私のおすすめは「スープカレー」です。

スープカレーは札幌市発祥の食べ物で、さらさらしたスープの中に素揚げしたごろごろ野菜がたっぷり入っています。スープカレーにもさまざまな種類があり、さらさら系やとろとろ系のスープ、海老スープなどがあります。まだ召し上がったことのない方は、ぜひご賞味ください！



スープカレーのイメージ

◇バックナンバー◇

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/nouson_furusato_hozen/index.html



バックナンバーはこちらからもご覧いただけます！→

◇令和元年度多面的機能支払交付金のあらまし◇

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai.html

◇「多面的機能支払交付金のロゴマーク」◇

ロゴマークは以下のサイトからご利用になれます。

どんどんご活用ください！！



高めよう 地域協働の力！

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/nouson_furusato_hozen/H29/pdf/logo.docx

◇配信先メールアドレスの変更・配信解除等◇

メールアドレス等の変更やメールマガジンの配信解除等は以下のサイトから！

<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/>

手続きにはパスワードが必要です。

お忘れの場合は、以下のサイトでパスワードを再発行して下さい。

<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/re.html>

◇ご意見・ご感想等◇

メールマガジンに関するご意見・ご感想や取り上げて欲しいテーマ、ご自身の所属する活動組織の紹介文（300字程度）等に関するメールをお待ちしております！！

tamen_ml@maff.go.jp

【発行】

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局整備部農地資源課

多面的機能支払推進室（担当：藤田、新谷）

TEL：03-3502-8111（内線5493）
